

さきがける 科学人

vol.50

藤田 咲子

Fujita Sakiko

奈良先端科学技術大学院大学
技術支援職員



プロフィール 1982年兵庫県高砂市生まれ。2004年大阪大学理学部卒業、06年同大学大学院理学研究科修士課程修了。製薬会社に1年間勤めた後、08年より現職。趣味は海外旅行。

実験も生活も楽しむ、電子顕微鏡のスペシャリスト

5年かけ電子顕微鏡を究める

細胞の中に浮かぶ小器官や溶液中の結晶を、クライオ電子顕微鏡（電顕）という大きな装置で観察しています。凍った試料を極めて薄い切片に削り、さまざまな角度から20枚以上の写真を撮ります。長時間、冷房の利いた機器室で寒さに震えながら細心の注意を払うため、夕方には疲れ果て、1日に1つの試料を調べるのが限界です。その分、データの質には自信があります。

試料の観察は、学内だけでなく、「ナノテクノロジープラットフォーム事業」で学外からも頼まれます。初めの2年間は電顕と格闘しました。高性能ですが取り扱いが難しく、細胞内の柔らかい構造物がはじけたり、ビームが強過ぎて試料をだめにしたり、ガスが出て電顕の内部を汚したりの連続でした。不安でたまらず、大学や企業の研究者に教を請い、学会や論文で勉強しながら、測定手法を蓄積しました。5年経った今では、ほぼどんな試料にも対応できます。

技術支援職員は、研究者の依頼に応じて必要なデータを取り、提供するのが仕事です。表舞台に立つことはなく、地味です。でも、知識と技術を最大限に使って、質の高い科学雑誌に私が測定したデータが載り、研究に役立つのならこんなに嬉しいことはありません。皆さんには感謝しています。恩返しに、マニュアル作りや講習に励んでいます。誰もが思いどおりに電顕を操れる日を夢見て。

実験を一生の仕事に

実験のとらえ方が大きく変わったのは高校

時代でした。それまでは教科書を追認する実験ばかりでした。初めて、新たな成果を自分の手でつかみ取る実験と出会ったのです。一生の仕事にしたいと、理学の道に進みました。

大学では、あるたんばく質の性質や構造について調べました。無限にあるアプローチの中から1つの手法を選び、自ら立てた問いを解く醍醐味にのめりこみ、研究室で朝を迎えることもよくありました。こんな地味な実験に楽しみを感じるなんて、私にはきっと裏方仕事に向いていると確信したのです。

もう一つ大切にしていたのは、家庭です。家族旅行の思い出が多く、自分の子供とも楽しい思い出を作りたいと感じていました。両親の勧めで公務員試験を受けましたが、落ちてしまい、製薬会社に就職しました。

やりがいはあったのですが、出産を機に研究現場から離れる先輩を見て、再び公務員試験を受け、大学の技術支援職員をめざしました。実験も子育ても諦めたくなかったのです。そこまで意志が固いと、見た目から想像できないね、とよく驚かれます。

向上心にあふれる同僚に囲まれ、努力が自分の楽しみにも大学や研究者への貢献にも直結する毎日を堪能しています。海外の研究者

と、時には趣味の海外旅行の話で盛り上がります。オランダで働く夫のもとで育児休暇を過ごし、子育ての合間にコツコツ学んだ英語が思わぬところで役立っています。

実験も生活も楽しむお母さんです。「こんなお母さんもすてきでしょ」と、いつか、わが子に聞いてみようと思います。

(JST広報課・松山桃世)



オランダで長女と。寒波で凍った水路にはスケートの跡がたくさん！

ナノテクノロジープラットフォーム事業

全国26機関40組織が備える最先端ナノテクノロジー装置を広く外部に公開し、共同利用を促進する文部科学省の事業です。JSTは、全国の参画機関と共同でプラットフォームを運営し、産学による装置利用で研究開発を支援しています。奈良先端科学技術大学院大学は「分子・物質合成プラットフォーム」に属し、クライオ電子顕微鏡を含む9つの設備を提供しています。



平成27年度「若手技術奨励賞」を受賞。恩師の河合社教授(右)および戸所義博連携マネージャー(左)と。

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

R280
古紙/パルプ配合率80%再生紙を使用

JSTnews

June 2016

発行日/平成28年6月1日
編集発行/国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)総務部広報課
〒102-8666東京都千代田区四番町5-3サイエンスプラザ
電話/03-5214-8404 FAX/03-5214-8432
E-mail/jstnews@jst.go.jp ホームページ/http://www.jst.go.jp
JSTnews/http://www.jst.go.jp/pr/jst-news/



最新号・バックナンバー